



「答え」ではなく「応え」がある場所に

園長 野中 泉

つい2、3日前のこと。あるお父さんとお母さんそれぞれから「先日は、非常識なことをしてすみませんでした」ととても神妙な顔で謝られました。謝られた私は何のこと?とキヨトン。聞けば5月21日のお弁当の日に小学生のお姉ちゃんが創立記念日でお休み(毎年その日に合わせてお弁当の日を設定しています)だということを夫婦そろって忘れていたらしく、自分たちは仕事に行かなければいけない、どうしようと困ってお姉ちゃんもアトムで預かってもらうのは無理でしょうか?とアトムに電話をしてしまったという話でした。その日は私は出張で東京に行っていて留守だったのですが、帰ってすぐに対応したみねちゃん(上原事務員)から「こんな問い合わせがあって悩んだんですけど、4、5歳が遠足で職員がたくさん出払っていて、う~ん、今日はうちも難しいんですけど、どうにかなりますか?と答えてしまって。結局、みてもらえる人が見つかったみたいでよかったんですけど」と報告は聞いていました。報告を聞いた時にも「あらあ、ピカピカアトムっ子まつりの日やったら、ひとりくらいどうにかなるよと言つてあげられたのにねえ」とみねちゃん(上原)とふたりで言い合つたことも思い出しました。

「こちらこそ、預かってあげられなくてごめんね」と笑つた私に、前述のお母さんは神妙な顔でこう続けました「いえいえ、後から考えたら保育園にお願いするようなことじゃないのに、一瞬パニックになってアトムに電話したらどうにかなるかもと思ってしました。ほんとにごめんなさい」。それを聞いて、光栄だなと思いました。どんなことでも困ったときにアトムに電話したら、どうにかなるかもと思ってくれたとしたら、それはやっぱりうれしいことです。

もちろん、思い出してもらつても、頼つても、今回のようにう~んと考えて結局力になれないこともあります。でも、それでも、これからも、どんなことでも、どうにかならないかしらと、う~んと一度は悩む私たちでい続けたいと思うのです。

ある親しい友人とアトムのことを話していたときに「人をささえるのは、答えではなく、応えですよね。アトムにあるのは、『応え』なのだと思います」と言われたことがあります。どういう意味?と尋ねると更にこんな話をしてくれました。「最初から答えがあつたら、関係が生まれていかないですね。学校の教室がつまんないのは、そのためなんだなあとかね。おもしろくない公共施設は、道徳=ルール=これは禁止ですみたいな貼り紙でなりたつて。だから居心地がわるいんですよ」。図書館の館長さんでもある彼は伊藤亜紗さんという人の書いた「手の倫理」に書かれている『道徳と倫理の概念』という少々難しそうなことを引き合いに出しながら、こんなふうに解説してくれました。

「道徳とは誰にとってもいつも正しいもの。これに対して、倫理はその時々で揺れることだと。たとえば、電車で高齢者に席を譲るかどうか。道徳としては譲る一択だろう。しかし、実際、席を替わつたほうがいいかどうかは場合による。一方的に席を立つのではなく「替わりましょうか?」と相談して決める。その姿勢が倫理ということになる。倫理は答えが決まってないんです。だから揺れる。でも、その揺れを大事にしているのが、アトムだと思いませんか」

道徳やルールに代表される最初から決まった「答え」ではなく、お互いの都合を受け止め合う「応え」。その関係性の中から「あたたかい場所」が生まれるということだと、私は理解したのですが、みなさん、どう思いますか。